

## 千里の鳥・万博の鳥(第99回)「オオバン」(2021年2月)

コロナによる緊急事態宣言延長もあり探鳥会再開が見通せない中、近畿北部や北陸の多雪でエサが取りにくくなった冬の小鳥が南下しているようで、近所の緑地でシロハラ・ツグミなどが増えてきた。

さて今月の有賀氏からの写真は「オオバン」、吹田市で池の水面に氷が張った1月9日、万博公園で氷の上をこわごわ歩く姿が観察された。このオオバン、1981年に新種として沖縄県で発見され留鳥、誰もが知っているヤンバルクイナと同じクイナ科の鳥である。

私が鳥を見始めたころ、同じクイナ科で留鳥のバンは家近くのあちこちの池にいたものの、オオバンは非常に稀な冬鳥で、大阪近郊で見たことがなかった。

1985年にスタートした万博公園探鳥会でも、バンは毎年観察できたのに対し、オオバンを観察したのは2014年以降である。それが最近冬の池はオオバンが主役と思われるほど多くなり、逆にバンが少なくなっている。オオバンが異常に増えたことで、大阪府は毎年1月実施しているカモ調査時に、オオバン生息数も記録するよう希望されたのが2016年1月以降で、大阪府内で3,000羽近く確認されている。

オオバンは開けた湖や川で集団を作っていることが多く、水にもぐるのが得意でしかも大食漢、水面下の水草を干切り取ってきて食べている。オオバンが泳ぎ上手で潜ることもできるのは、今回有賀氏の写真からもわかる、足指の弁足(木の葉のような弁膜)による。

オオバンの不思議の一つに、水草の多い池でヒドリガモ・ヨシガモなどカモと仲良く餌をとっている光景がある。本当は仲良しでなく、オオバンが潜って水草を取りくわえて水面に出てきたとき、潜れないヨシガモなどが近づいてきて、水草を横取りしようとしている所である。オオバンはカモに餌を取られてもそれほど怒る様子もなく、再度水草取りに潜っていくことが多い。

大阪府内で冬は3000羽近く確認できるオオバンは、大阪湾沿岸で少数繁殖しているの、今後繁殖範囲

が広がってくると予想される。吹田市では以前からバンの繁殖が良く観察されているが、オオバンが繁殖するかどうか、また繁殖した時バンとの競合するののかどうかなど、オオバンとバンの今後に興味がある。

早咲きの梅の花が見られる頃、明るくなった早春の日差しをうけシジュウカラの繁殖期に向けたさえずり「ツツピー・ツツピー」が始まるなど、鳥たちの賑わいを観察できる季節となった。

多数の人が集まる探鳥会は「2月もお休み」となるが、三密を避けマスク着用、ポケットカイロを忍ばせて、身近なご自分のフィールドを歩くと、いろんな鳥たちが春の装いで歓迎してくれるので、ぜひ「一人バードウォッチング」を楽しんでくださるよう。

\*\*\*\* 写真 \*\*\*\*

種名:オオバン(氷上を歩く)

撮影日:2021年1月9日

場所:万博公園

撮影:有賀憲介

\*\*\*\*\*

(参考文献)

①ガンカモ調査結果2015~2019年度(大阪府)

②大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部)

